

大学図書館利用者教育研究序説

「テキサス大学図書館利用者教育総合計画」を中心として

An Introductory Study on Library Instruction for Academic Libraries With Special Reference to *A Comprehensive Program of User Education for General Libraries, the University of Texas at Austin*

渋川 雅 俊
Masatoshi Shibukawa

Résumé

There are increasing evidences that fewer and fewer students in colleges and universities are really able to cope with the complexity of bibliographic systems in the academic library of today. Library use instruction has been regarded as an essential library activity by many Japanese academic librarians. Attempts and devices for the recognition of importance of instruction for use, however, have never been enough successfully implemented in Japanese higher education. The writer reemphasizes needs of practical library user education for successful higher education, and reviews briefly developments of studies on library user education in the United States. Special remarks are made to the comprehensive and well organized program of user education of libraries developed recently at the University of Texas at Austin. To help the reader understand well, a translation of the *Program* at the University of Texas is attached. It is the writer's conclusion that Japanese professional librarians are responsible to develop such a program of user education as implemented by the University of Texas Libraries so that the completion of instructional courses will evolve Japanese students' attitude towards the library and higher education.

- I. 図書館利用者教育研究の必要性
- II. 米国における図書館利用者教育研究
- III. テキサス大学における図書館利用者教育の内容
 - A. 計画の定義と目的
 - B. プログラムの内容
 - C. 計画の<新しさ>と特徴(付録)「テキサス大学図書館利用者教育総合計画」

渋川雅俊：慶應義塾大学三田情報センターテクニカルサービス部整理課長

Masatoshi Shibukawa, Chief, Cataloging Section, Technical Services Department, Mita Library and Information Center, Keio University.

I. 図書館利用者教育研究の必要性

図書館利用者教育とは、図書館を活用して勉学を進める方法を学生に教育することである。図書館を活用するとは、そこに収集・蓄積されている文献を使って学習することだけを意味するものではない。それが最も大事なことであることは事実だが、図書館を活用することの本当の意味は、図書館を構成する四つの要素、すなわち、蔵書、施設、文献・情報検索法および図書館職員のすべてを総合的に駆使して学生自身の学習や研究に役立たせることである。

大学図書館人は、すべての学生に対して図書館利用法を正規の大学教育として教授する必要性を感じてきた。何故それが必要かということも日常の図書館サービスを通じて十分に承知している。それを簡単に表現するならば次のようなことになるだろう。

今日、知識の量が増加しているという状況がある。それも単に量的な増加だけでなく、専門化、細分化、インターディシプリナリーなどの質的な拡張となって現われている。さらに、新しい知識の出現の速度や、古い知識が新しいものによって訂正されたり、あるいは、補足されたりする展開の程度は、ますます激しくなっている。こうした状況の下で、図書資料の出版量は増加し、出版生産源は地理的に拡散し、結果として、それらを収集、組織、蓄積、提供の一連の機能を果たしている図書館のしくみが拡大し、また、緻密にならざるを得なくなっている。このことは、図書館を利用する、すなわち、書物を読むといった行為自体が変容せざるを得ないことを示している。図書館に行けば必要な文献があり、それを借り出して読めば済むといった簡単な行動型は、図書館で必要な文献を探し、実際に入手するまでに目に見えぬ諸々の手続を経る必要があるという行動型になってきている。そのような状況は、規模が大きく、そのしくみが整備されている図書館ほど顕著となる。これが図書館利用者教育を必要とする基本要因である。

図書館利用者教育の結果として、個々の学生が得得であろう学習方法や研究方法とそれについての習熟は、大学教員など一部専業研究者の独占するものではない。学生にとっても、それは、わずかに四年の間だけに必要な学業術ではない。社会人として、また職業人として必要な自己開発、あるいは、生涯教育における知的生産の技術と直結すべきものである。

日常生活におけるクオリティ・ライフのための情報検

索法、情報活用法を説く著書が数多く刊行されており、またよく売れていると伝聞する。図書館利用者教育の必要性は、これらの本がよく読まれているのと同じ背景をもっていると言えるが、それは単なる〈ハウトゥ〉ではない。もっとアカデミックに検討されなければならない問題である。

学問的な意味での知識への接近法は、古くから大学教育の重要な問題として認識され、教室での講義を通じて、あるいは、教師と学生の個別の交流の中で教えられ、語られてきた。読書論あるいは読書法は、その中でも最も基本的なものであったと言って良いであろう。読書という行為の様態は時代が新しくなる度に変容しているが、図書館利用法はその伝統的な方法を一つの目標としているものである。したがって、その必要性の発想そのものは目新しいものではない。図書館では比較的古くからこのことに気付き、内容の程度はともかくとしても、図書館をどのように利用するかという指導をサービスとして行ってきたし、また、そうした形のPRを重視してきている。しかし、それは、今日の大学教育が必要としている程度に十分に対応し得るものではないことも事実である。

今日の、あるいは、これからの大学教育が図書館に求めることについては、カーネギー高等教育委員会の報告に明確に指摘されている。

知識の増大は著しい。その結果もたらされる知識の新しい富の増加は、誰れもそのすべてを確実に掌中に収めることができない。そればかりか、学生時代には、その中の僅かなものを知識のサンプルとして獲得できるに過ぎないことを意味している。そこで問題となるのは、高等教育を受ける人びとが社会と自分について何を知ることができるか、何を知らなければならないか、そして、それらのことを如何にして入手するかとゆうことであろう。いずれにしても、既存の知識を教えるという高等教育に課せられた役割は、その重要性を減少しつつあり、生涯を通じての自己開発の技術や方法、とくに図書館を活用する自主的勉学の技術と方法を教えることの重要性が高まりつつある。¹⁾

この報告を踏まえて、同委員会は、これからの大学図書館の発展の方向について次のように提言している。

大学図書館はこれまで、一般的には次のように認識

されていた。すなわち、図書館は学生の教育には直接的な関わりが薄い機関である。また、それは書物を保管する場所であり、学生がそれを必要とするならばそこで勉強できる場所でもある、と。しかし、これからの図書館は学生の教育に、より一層関与すべきであり、現に幾つかの大学では、図書館が積極的に教育に重要な役割を果たしている。ライブラリアンは、各自の専門分野において学生に助言を与えたり、クラスやセミナーにおいて学習法や研究法について講義する立場にあると意識すべきであり、また、そのような機会をもつべきである。図書館それ自体も、コンピュータ・ベースド・インストラクションや、ビデオカセットなど新しい教育テクノロジーの利用のためのセンターとして発展すべきである。²⁾

II. 米国における図書館利用者教育研究

図書館利用者教育は全く新しい着想から始められたものではない。³⁾ 米国では、1883年に図書館利用者教育の必要が説かれている。⁴⁾ 凡そ100年後の今日、何百もの大学図書館が総合的な図書館利用者教育の活動を始めている。⁵⁾ この問題についての米国図書館人の長い間の連綿とした努力が窺われる。

わが国においても過去20年間、米国における諸々の試みを模し、図書館利用者教育の重要性を実証しようと努力してきた。それは、図書館利用案内の発行、図書館利用のためのオリエンテーションやガイダンス・プログラムの実施、スライド・ストリップや16mm映画など視聴覚メディアを活用した図書館利用案内となって現われた。しかし、これらは、その一つ一つについて、図書館利用者教育の目的に対しての有効性が確信されていたものでなかった。現在でも、それらは単に学内における図書館についての広報の手段として考えられているに過ぎない。⁶⁾ したがって、残念ながら、それらが教育の手段として発展することはなかった。

一方米国の大学では、比較的早くから図書館の利用、とくに主題関係の文献検索法が正規のコースにおいて教育されていた。⁷⁾ その点でわが国と若干事情が異なっているが、1970年代に入ってからは、これまでとは違う、新しい内容を含むものとして見なおされるようになった。〈ライブラリー・インストラクション〉(Library Instruction)あるいは〈ビブリオグラフィック・インストラクション〉(Bibliographic Instruction)と呼ばれ

ている考え方であり、方法である。

ライブラリー・インストラクションがどのようにそれ以前のものとは違うのか、何故新しい内容が必要となってきたのか、それを検討することは興味深い。しかし、それは単に図書館利用者教育研究への興味に止まるべきではないだろう。これからの図書館利用者教育が以前のものとどう違う必要があるかということは、米国だけではなく、わが国の大学においても重要な意味を持つと考えられる。

The journal of academic librarianship 1976年9月号における論説で指摘されているように、図書館利用者教育は全く新しい着想で始められたものではない。それはこのテーマに関する Bonn の文献研究⁸⁾でも明らかであり、研究文献の量と最初の文献が発表されてから現在までの研究の時間的継続がそのテーマに対する関心の強さ、問題の重要性を示すものであるとすれば、米国図書館専門職における図書館利用者教育に対する関心は相当以前から非常に強く、彼らにとって、それは常に重要なテーマであったと言える。

Bonn によれば、1876年にこのテーマに関する最初の文献が現われ、時代が下がると共に文献量は増加している。彼は、1876年から1958年までに現われた約300件のモノグラフ、雑誌論文および学位論文を網羅的に検討し、学校図書館、公共図書館、大学図書館における利用者教育の理論と実際を審らかに検討している。

Mirwis は、1960年から1970年までの図書館関係専門誌と高等教育関係の専門誌の論文、研究書および学位論文の中から、大学図書館における利用者教育について161件の書誌を作成している。⁹⁾ 1971年から1977年の7年間における文献については、1978年1月24日現在 Dialog¹⁰⁾ の文献検索によって131件の研究書、雑誌論文、研究報告、計画書を得た。使用したデータ・ベースは ERIC¹¹⁾ である。そして今もなおこのテーマに関しては、“大学図書館における図書館オリエンテーションに関する会議”(Conference on Library Orientation for Academic Libraries)¹²⁾ を中心に活発に検討され、個々の図書館においても、利用者教育の実施について研究を盛んに行っている。

こうした研究活動および利用者教育活動の成果は、現在 LOEX プロジェクトに収集されている。この計画は、前述の“大学図書館における図書館オリエンテーションに関する会議”の第1回(1971年)年次会議において、その必要性、その構想などが検討され、翌年から実施さ

れたものである。¹³⁾

“LOEX”とは、Library Orientation Exchange の略号であり、ここで言うオリエンテーションは、大学図書館でのあらゆる形態の図書館利用を包括している。すなわち、それは、単なる図書館施設の見学ツアーから、研究者や大学院生に対するビブリオグラフィック・インストラクションまでのものを対象としている。この計画の目的は、図書館利用者教育に関心を持ち、そのための計画を実施あるいは研究しようとしている大学図書館のライブラリアンや図書館学教育者数に対し、オリエンテーション・プログラムや図書館利用者教育プログラムの実際や研究についての情報を伝達することである。この目的のために、LOEX 計画は、図書館利用者教育計画実例と研究の情報と資料のクリアリング・ハウスとして機能している。LOEX 計画は現在、イースタンミシガン大学教育資料センターに置かれている。現在 520 館がこの計画に参加しており、この他にも 400 館以上で利用者教育を計画、実行に移そうとしている。^{13)・14)}

III. テキサス大学における図書館利用者教育の内容

テキサス大学は、1977年2月、新しい「図書館利用者教育総合計画」¹⁵⁾を公表した。これは同大学において1974年から検討されていたものであり、計画成立後2年間で実施に移す予定である。

図書館利用者教育に関する米国での実例として同計画をとりあげ、その内容を検討したい。なお本論文末尾に同計画書の訳文を付録として添付してあるので、参考にしていただければ幸いである。

A. 計画の定義と目的

“図書館利用者教育”は、相互に関連する三つの独立した領域、すなわち、①ユーザー・アウェアネス (User Awareness) ②オリエンテーション (Orientation) ③ビブリオグラフィック・インストラクション (Bibliographic Instruction) を含むものであり、これら三つの領域における諸々のプログラムを並行し、関連させて実施することが最終目標である、と同計画は規定している。

これらの領域は、利用者教育の最終目的に対して、段階的に発展するものである。すなわち、利用者の頭の中に常に図書館の存在を意識させ、同時に利用者の眼を常に図書館に向けさせるユーザー・アウェアネスの目標の

もとに計画される、ごく初歩的な、しかし、基本的なプログラムから始められ、次に利用者の足を図書館に運ばせ、そこで実際に何をしているかを見たり、手にとったりして確かめてもらうステップであるオリエンテーションの諸プログラムを経て、最後には、図書館を勉学の手段として利用者自身の掌中に収めさせようとするビブリオグラフィック・インストラクションでの諸プログラムへ結びつく、一連の繋りのある区分と解してよいであろう。

同計画では、ユーザー・アウェアネスは、図書館が学習と研究の基本的な学内情報源の一つであり、また主要な学内機関であり、そして学生はそこから自分の勉学に必要な情報の入手に関して適切な援助が得られるとゆう認識を増進させることを目的とする。全く図書館を使わない学生たちを含め、全ての学生が図書館資料を十分に利用すべきであるとするならば、学生全員にそうした認識を植え付けることは不可欠である。学生たちが図書館サービスや資料の重要性に気付いたら、次にオリエンテーションを実施する。それは、学生たちが学内の図書館の諸々の施設を良く知り、実際にそれらの使い方に慣れることを目的とする。そのため、この段階のプログラムでは、学生一人一人が次のことを達成できるようにすることを目標としている。

- ㊸学生が各自の要求に適合する図書館の施設と手続に慣れる。
- ㊹図書館員は学生を援助するために配置されていることを周知させ、気軽にその手助けを受けることができるようになる。
- ㊺カード目録や雑誌所蔵リストなど図書館所蔵資料の検索に必要な基本的記録について、その使い方に習熟する。

オリエンテーションは、利用者教育の第二の重要なステップであり、そのプログラムは、次のビブリオグラフィック・インストラクションのプログラムに対して基礎作業となる。ビブリオグラフィック・インストラクションは、学生が自分の勉学上の情報要求に対して、彼らが図書館のすべて、すなわち、資料、施設・設備、資料検索の装置、図書館員の人的サービスを最大限に活用する能力をつけることを目的とする。そのために、図書館は次の目標で諸々のプログラムを設定する。

- ㊻学生が蔵書、施設・設備、資料検索手段、図書館員を効果的に活用する技術に熟練するよう学生を教育する。

⑩これらの資源を活用して学生自身の自主的学習法を確立、発展するよう学生を援助する。

B. プログラムの内容

〔論文末尾に掲げる「テキサス大学図書館利用者教育総合計画」を参照されたい〕

C. 計画の〈新しさ〉と特徴

プログラムの具体的な内容は、III. A. に述べた目標、目的に添って設計されている。しかし、その目的や目標における理念は、こと更く新しい概念とする必要はないかもしれない。たとえば、Branscomb¹⁶⁾ が主張していること、あるいは、前章で触れた図書館利用者教育研究や実際の計画が、目的あるいは目標としたものと基本的に異なることはないからである。

だが、テキサス大学の計画が、〈新しい〉一つの例証としてとりあげられるべき所以は、一つには、前述の目的設定の前提条件にあり、もう一つは、その条件をプログラムに生かす工夫をしている点にある。その前提条件とは、学内における教育諸活動、実際には教師が学生にものを教える行為と同計画を、高等教育の目的、テキサス大学の教育目標のもとに、相互補完の関連性を強化し、具体化しようとしている点であり、同計画がテキサス大学コミュニティのすべての要求に対して図書館が対応できる能力を増進しようとする目標設定の網羅性であり、さらに、学生の学習能力に段階的な発展のあることを考慮したプログラムの継続性とその内容の多様性である。

プログラムの特徴を〈新しさ〉の観点からとらえるならば、次の五つの点を挙げるができる。

- ④プログラムの多様性と総合性
- ⑤プログラムの発展的継続性
- ⑥プログラムとカリキュラムの相互補完性
- ⑦プログラムの網羅性 (学内諸図書館サービス手続の互換性)
- ⑧教育機器、各種教育メディアの体系的活用

プログラムの多様性および総合性とは、内容が豊富で多岐にわたっているだけでなく、利用者の特性を配慮した各種のプログラムを内包していることを示す。この計画では、最初のユーザー・アウェアネスの段階においてそれぞれの特性を次のように類型化し、それぞれのアプローチを工夫している。

- ⑨低学年学部学生
- ⑩高学年学部学生

⑪大学院生

⑫特定学生グループ

- (i)新入生 (⑬新1年生, ⑭転入生, ⑮新大学院生)
- (ii)外国人留学生 (⑯正規留学生, ⑰英語研修留学生)
- (iii)特殊条件の学生 (少数民族グループ, 経済的に困難な学生, 身体障害学生グループ, 中高年学生グループなど)
- (iv)学会, 研究集会, 講習会参加者

⑬教員と専門職職員

⑭一般職員

これらの各種の利用者グループに対する、それぞれのプログラムは、それぞれ独自に行われているのではなく、単一の総合計画の中で体系化されており、その組み立て方の原理が第2の特徴と関連している。

プログラムの発展的継続性とは、ごく初歩的な図書館利用法から始められ、高度の文献・情報検索・利用技術の修得まで一連のものとして設計されていることを示している。そのような一貫性に基づき、前述のユーザー・アウェアネス、オリエンテーション、ビブリオグラフィック・インストラクションの三つの領域が、新入生、低学年生、高学年生、さらに大学院生とそれぞれの学習過程、あるいは、学生個々の学習上の達成度に応じてプログラムが段階的に積み重ねられている。また、一般、あるいは、原則的な図書館利用から特殊な、専門的な文献・情報検索利用法へのプログラムの誘導もこの特徴の一つの表われである。

カリキュラムとの相互補換性は、ビブリオグラフィック・インストラクションにおける教科目設定の二つの原則、すなわち、教科目関連図書館利用者教育 (Course-related library instruction) と教科目統合図書館利用者教育 (Course-integrated library instruction) に表われている。教科目関連図書館利用者教育は、プログラムの内容が特定教科目において学生に課される特定アサイメントの解決に役立つ技法と科目の主題に関連する特定の参考資料に焦点を置いている。ここでの図書館の役割は、図書館専門職が学生に対しアサイメント問題解決に必要な援助、事務的助言を与えることである。この場合の利用者教育は、アサイメント処理上の図書館利用法、あるいは文献利用法に関する指導と助言であり、学生が問題を首尾よく解決する一手段の教育である。それに対し、教科目統合図書館利用者教育は、利用者教育そのものも特定教科目の最終的目的となっている。すなわち、学生はその教科目の学習を通じ、その科目の内容主

題について勉学しながら、彼ら自身の学習法の発展のために、図書館利用技術や文献・情報検索・利用技法を学ぶことになるわけである。

いずれの場合においてもプログラムは、正規のカリキュラム、正規の教授法と有効な相互関係によって成り立っており、教員＝図書館関係がこのプログラム成否の鍵となっている。

テキサス大学の図書館利用者教育を斬新な一つの例として挙げた理由は、以上の三つの特徴によるものであるが、他の二つの点は、＜新しい＞プログラムの実施に必要な条件として欠くことができない。

図書館利用者教育計画の根底には、よく整備された充実した図書館が存在していることが重要であることは改めて言及する必要はないであろう。テキサス大学では計画を総合図書館を中心に全学の21館の分館と特殊コレクションや研究所を含めて実施している。21館のそれぞれの高い充実度がこの計画の基盤であると同時に、サービスの様態、利用手続などが全て同じであることも重要である。

また、利用者教育は、どのような形式であるにせよ、コミュニケーションに基づくものであるから、教育内容の伝達に最も効果的な方法を工夫すべきである。とくにプログラムの内容に応じて、クラスルーム・プレゼンテーション、テキストの使用、印刷物配布などの伝統的な方法の他にも、視聴覚機器やエレクトロニクスメディアなどの活用は有効であろう。テキサス大学の計画では、これらの点についても工夫の跡が窺われる。

- 1) *Reform on campus; changing students, changing academic programs*—a report and recommendations by Carnegie Commission on Higher Education, June 1972, New York, McGraw-Hill, 1972, p. 23-5.
- 2) *Ibid.*, p. 50.
- 3) "Library instruction: Editorial," *Journal of academic librarianship*, vol. 2, no. 4, sept., 1976. p. 171.
- 4) Palmer, M. C. Why academic library instruction <*Library orientation*, papers presented at the 1st Annual Conference on Library Orientation, Eastern Michigan University, May 7, 1971, edited by S. H. Lee, Ann Arbor, Mich., Pierian Press, 1972> p. 1.
- 5) Kirkendall, C. The status of project LOEX, *Library instruction in the seventies; state of the art*, Papers presented at the 6th Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, held at Eastern Michigan University, May 13-14, 1976, edited by H. B. Rader, Ann Arbor, Mich., Pierian Press, 1977> p. 25-30.
- 6) 大学図書館の広報に関するアンケート調査集計. 関西学院大学図書館. 1978. 24L.
- 7) Branscomb, H. *Teaching with books; a study of college libraries*. Hamden, Shoe String Press, 1964. p. 54-101.
- 8) Bonn, G. S. Training layman in use of the library, *State of the library art*, edited by R. R. Shaw, New Brunswick, N. J., Graduate School of Library Service, Rutgers University, 1960> p. 1-114.
- 9) Mirwis, A. "Academic library instruction—a bibliography, 1960-1970," *Drexel library quarterly*, 7, July/Oct. 1971, p. 327-35.
- 10) Lockheed/Dialog, Lockheed Information Systems, Palo Alto, Ca. 下記の ERIC など数多くのデータ・ベースを網羅した情報サービスシステム、国内では紀伊国屋書店、丸善からこのサービスが購入できる。
- 11) Research in Education と Current Index to Journals in Education を情報源として、National Institute of Education, Washington, D. C. と Educational Resources Information Center, Processing and Reference Facility, Bethesda, Md. が製作している教育、教育学分野の情報サービスのデータ・ベースである。
- 12) Eastern Michigan 大学教育資料センターが中心となって1971年から毎年1回開催されている。これまでに下記の会議録を Pierian Press, Ann Arbor, Mich. から Library Orientation Series として刊行している。
 - No. 1. *Library orientation*; papers presented at the First Annual Conference on Library Orientation held at Eastern Michigan University, May 7, 1971.
 - No. 2. *A challenge for academic libraries; how to motivate students to use the library*; papers presented at the Second Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 4-5, 1972.
 - No. 3. *Planning and developing a library orientation program*; proceedings of the third Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 3-4, 1973.
 - No. 4. *Evaluating library use instruction*; papers presented at the University of Denver Conference on the Evaluation of Library Use instruction, December 13-14, 1973.

- No. 5. *Academic library instruction; objectives, programs, and faculty involvement*; papers of the Fourth Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 9-11, 1974.
- No. 6. *Faculty involvement in library instruction; their views on participation in and support of academic library use instruction*; papers and summaries from the Fifth Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 15-17, 1975.
- No. 7. *Library instruction in the seventies; state of the art*; papers presented at the Sixth Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 13-14, 1976.
- 13) Bolner, M. Project LOEX: The first year <Planning and developing a library orientation program>; proceedings, of the 3rd Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries, Eastern Michigan University, May 3-4, 1973. managing editor; Mary Bolner, Ann Arbor, Mich. Pierian Press, 1975> p. 53-7.
- 14) Kirkendall, C. Project LOEX—the third year, <Faculty involvement in library instruction; their view on participation in and support of academic library use instruction, papers and summaries from the 5th Annual Conference on Library Orientation for Academic Libraries held Eastern Michigan University, May 15-17, 1975, Ann Arbor, Pierian Press, 1976> p. 41-2.
- 15) *A comprehensive program of user education for the General Libraries*, the University of Texas at Austin, 1977, 45,56 p.
- 16) Branscomb, *op. cit.*

付 録

「テキサス大学図書館利用者教育総合計画」¹⁾

I. ユーザー・アウェアネス

利用者教育総合計画の中で、ユーザー・アウェアネスの目標は、図書館が学内における基本的情報源の一つであり、利用者はそこから自分の種々の情報要求に対して援助を受けることができることを、利用者に印象づけ、さらにその認識を増進させることにある。

1. プログラムの内容：プログラムは目に見える形で、具体性を持ち、特に潜在的なかくれた図書館利用者に接近することができるよう設計される必要がある。

a. 一般広報プログラム

(1)学内出版物に対し経常的に図書館とライブラリアンについてのニュースを提供する努力をする。たとえば、*On-Campus*²⁾や、場合によっては、市、州、合州国の出版物に対してニュース提供活動をする。

(2)*General Library Newsletter*³⁾の刊行。

(3)KUT⁴⁾にPRスポットや図書館についての5分間番組を流す。

b. 学内諸図書館について、特に蔵書やサービスの内容をテキサス大学コミュニティ内に広報するプログラム

(1)*General Information Bulletin*⁵⁾などの大学案内に、詳細な図書館についての解説を掲載する。

(2)ライブラリー・アワー・テレホン⁶⁾を開設する。

(3)レファレンス・デパートメントの電話番号を印刷したステッカーをほうぼうに貼付する。

(4)Union Showcase や Health Fair⁷⁾ など数々の学内催物に参加する。

(5)特にかくれた図書館利用者を獲得するため秋学期開講期にウェスト・モール⁸⁾で展示や催物を行う。

(6)*Counselling Psychological Center*⁹⁾に、たとえば、レファレンス・サービスなどの図書館サービスを説明するためのテープを設置する。

(7)あまり図書館を利用しない学生たちがよく参加する Texan Union Sandwich Seminar¹⁰⁾などでライブラリアンが講演し、図書館利用の重要性について理解を深める。

(8)*Daily Texan*¹¹⁾に広告を掲載する。

(9)ポスターの掲示

(10)チラシなどの配布

(11)Union 'Info Fone'¹²⁾で広報プログラムを実施する。

2. 各種利用者プログラムに対するプログラム内容

a. 学生

1) この付録は *A Comprehensive Program of user education for the General Libraries, the University of Texas at Austin*, 1977. p. 26-41. の翻訳である。脚注は訳者による。

2) 学内新聞の一つ

3) 図書館広報誌、一般に「館報」と呼ばれているもの。

4) テキサス大学によって援助されている学内テレビ放送。

5) 大学案内

6) 寄宿舍や学内の諸機関、あるいは、学外からの図書館利用についての電話問合せの案内電話のサービス時間

7) 大学が主催する学内各学部、研究所などの研究活動の成果、諸サービスの展示会

8) テキサス大学オースチン・キャンパスのメインビルディングの名称

9) 学生相談センター、ここでは学生生活の諸々の問題についてカウンセラーや心理学者が学生の指導、助言にあたる。また、麻薬、経済問題、セックスなどのトピックスに関して電話相談ができるが、そのトピックの中に図書館利用に関するものが含まれる。

10) テキサス大学連合会が主催する昼食会、この会で教員や外部の講師が招かれ昼食をしながらインフォーマルな懇談や講演が行われる。

11) テキサス州の日報新聞

12) 学内の特別な出来事について学生は連合会から電話でそれについての情報が得られるが、そのための特別な電話機セットのこと。

(1) 学生部夏期オリエンテーションの配布物の中にライブラリー・ボタン¹³⁾、図書館案内書、ポスターなどを含める。

(2) 大学院学生協議会の刊行する *Graduate Guide*¹⁴⁾ に図書館に関する詳細な案内や解説を掲載する。

b. 教員および専門職職員¹⁵⁾

(1) 新規採用教員と専門職職員に対する大学オリエンテーション・プログラムへの参加 (II. オリエンテーションの項参照)

(2) 教員に対する通常の配布物、諸連絡、たとえば、予約メモ、教員・大学院生向け図書館利用ハンドブック、教員向け図書館資料収集マニュアルなどを十分に活用する。

c. 事務職員

(1) 職員に対する大学オリエンテーションに参加する。(II. オリエンテーションの項参照)

(2) *Personnel-O-Gram*¹⁶⁾ に図書館について詳しい案内を掲載する。

(3) 図書館が大学コミュニティに提供している資料の内容やサービスの種類、範囲などを大学当局者に知らせ、図書館が教育と研究に貢献していることを一層認識してもらうために、図書館刊行物、諸々の報告書、その他の資料を提供する。

上記のプログラムに加え、分館図書館長や主題書誌専門職など特定のタイプの利用者に対してサービスを提供すべき立場にあるライブラリアンは、それぞれの図書館におけるサービスの広報について次のような手段をとる。

(1) 学部ニュース・レターやその他の刊行物に各図書館単位でのニュースを掲載する。

(2) 必要に応じ各学部広報板を活用する。

(3) 教員との個人的接触や教員会議、学生集会などに参加する。

3. 通常他の図書館を利用している利用者への広報プログラム

必要に応じ種々の図書館資料やサービスを案内するポスターを掲示したり、チラシを配布する。

II. オリエンテーション

利用者教育総合計画の第二段階であるオリエンテーションの目標は、次の3点を通じ、利用者が学内図書館諸施設や諸々のサービスに慣れるようにすることである。

(a) 建物、施設・設備や利用手続に親しむこと

(b) ライブラリアンは利用者を援助するために居ることを認識させ、気軽にその援助を求めるようにすること

(c) カード目録や逐次刊行物所在目録など、その図書館所蔵の資料を実際に入手するために使われる資料検索の基本的な諸記録類の使い方を知ること

1. 一般プログラム

a. サービスの方針と手続のありかた

ビブリオグラフィック・インストラクションのプログラムと同様、オリエンテーションの成功のため重要なことの一つは、図書館運営の諸々の方針、諸記録類、諸手続の一貫性と均質性である。それらの画一性は、利用者が一つの図書館で得た知識を再度のオリエンテーションを実施しなくとも、他の図書館の利用の場合にも活用できるために基本的なことである。総合図書館は、そのためにも、この点での努力を続け、カード目録の編成方式、排列規則、指定図書制度、逐次刊行物所蔵記録、目録方針、貸出手続や予約制などに、より一層の一貫性を求めるよう、学内諸図書館に働きかける必要がある。

b. グラフィックスの掲示

次のようなグラフィックスを、必要に応じ各図書館単位で掲示する。

(1) 図書館専用棟でない建物に設置されている図書館の案内図

(2) 図書館の主要なサービス拠点、主要参考資料、書架などの配置を示す案内図

c. 印刷物の種類

(1) 図書館利用案内

(2) 分館図書館利用案内、CIS (コンピュータによる機械検索サービス) や ILS (図書館相互貸借サー

13) キャンペーンなどによく使用されるワッペンのようなもの、現在これは使われていない。

14) *The University of Texas at Austin, General Libraries Handbook for Faculty and Graduate Students*, 1977. 47 p. 教員および大学院生向け図書館案内。

15) 図書館専門職、研究補助員・技手、プログラマー、経営管理専門職などの職種があり、それぞれの資格をもっているスタッフ。

16) テキサス大学教職員全員に配布される学内報、とくに人事・給与関係が主要な内容である。

大学図書館利用者教育研究序説

ビス)などの案内

(3)ブックマーク・シリーズ¹⁷⁾

d. 館内見学ツアーの種類

(1)印刷物やカセット・テープを活用した利用者自身の自発的図書館見学(ペリー・カスタンニェード図書館, 総合図書館, ベンソン・ラテンアメリカ図書館)

(2)学期始めに計画されたり, 教員の要請に応じて各図書館単位で行われるグループ館内見学ツアー

e. 展示およびメディア・プレゼンテーション

(1)各図書館単位で, 必要に応じ図書館施設の案内図

(2)電話ヘッドホーンやスライドなどの準備, および, ペリー・カスタンニェード図書館のロビーで行われるフィルム・ループなどを使ったメディア・ディスプレイ

2. オリエンテーションのための上記の一般プログラムの他に, 特定の利用者グループの図書館利用教育のため設計されたプログラム

a. 低学年学部学生

<プログラムの目標> 以下のプログラムは, 低学年学部学生が次の目標に到達することを目的とする。

(1)学部学生図書館の主要な施設や資料の配置を知り, それらの使い方に慣れること

(2)館外貸出手続の基本を知り, 資料帯出の際の貸出者の心がまえを十分にわきまえること

(3)リザーブ・ブックの基本的な利用手続を知ること

(4)定期刊行物の所在を確認する手続を理解すること

(5)学部学生図書館の他に, 学内に学生が利用できる数々の図書館や文庫が存在していることを知り, さらに, レファレンス・サービスのスタッフが彼らを援助するために待機しており, また, ペリー・カスタンニェード図書館閲覧目録や逐次刊行物リストが学内の他の図書館の資料の所在を明らかにしてくれることを知ること

(6)学内の他の図書館の配置や利用手続に慣れてい

て, 自分たちのアサイメントのためにどの図書館が利用できるかを識別できること

(7)必要な時にはライブラリアンに指導や助言を求められること

<プログラムの内容> 教員と学部学生図書館との間でとりきめられているプログラム

(1)一年生英語教科の中に含まれている学部学生図書館の自発的館内見学ツアー

(2)ビブリオグラフィック・インストラクションで計画されている利用者教育プログラムについてのオリエンテーション

(3)学部学生図書館の中で行われる利用者教育コースに登録している学生たちを教えている教員達との協議(Ⅲ. ビブリオグラフィック・インストラクションの項参照)

b. 高学年学部学生

<プログラムの目標> 高学年学部学生に対しては, 低学年時に修得した事項に加え, 以下のような目標を達成できることを目的とする。

(1)自分の専攻分野に関係のある分館図書館や特殊分庫の資料を利用できるようにすること

(2)ペリー・カスタンニェード図書館閲覧目録で検索することができない資料(たとえば, マイクロ資料, 新聞, ヴァチカル・ファイル資料, HRAF(ヒューマン・リレーションズ・エリア・ファイル¹⁸⁾など)の存在を知ること

(3)どのライブラリアンが自分の情報要求の入手に対して指導できるかを識別できること

<ペリー・カスタンニェード図書館はじめ, 他の分館図書館や特殊文庫のライブラリアンが関与するプログラムの要点>

学生の進級または卒業の条件として, オリエンテーション・プログラムを基礎科目とする, あるいは, オリエンテーション・プログラムに含まれている図書館利用技術コースを必修科目または選択科目とするよう各図書館は各学部, 各大学院研

17) 葉, 図書館ではサービスの内容や手続などを案内した葉を作って配布している。

18) Human Relations Area File - 文化人類学, 社会学, 政治学, 心理学, 歴史, 地域研究などに関する情報源の一つである。1949年に米国ニューヘヴンに設置され, 米国を中心に世界各国の研究所(日本では京都大学が1963年より正会員, 東京大学とアジア経済研究所が準会員)が参加して構成されている。一般の学術図書館と異なり, 単行書や雑誌, あるいはマイクロ資料など記録媒体ごとに情報を収集, 組織, 蓄積するのではなく, 関連主題の記録情報単位で資料を収集し, それを1ページずつ5×8インチのカードに複製して, 地域別・件名別分類番号を記載の上ファイルを構成している。

究科に働きかける。特に高学年学部学生に対するオリエンテーションは、低学年学生に対するプログラムを踏まえながら、重複を避け、主題重視の方式を採用することが望ましい。プログラムの概略は、後述(Ⅲ. ビブリオグラフィック・インストラクションの項)する。

c. 大学院学生

<プログラムの目標> 大学院生に対するオリエンテーションは専門分野、または、主題を中心として行われる必要がある。しかし、テキサス大学に始めて入学した大学院生には、学部学生に対して行っているプログラムの資料も使用される。

大学院生が自分たちの図書館利用目的を達成できるようにするためには、次のような目標が掲げられている。

- (1)ペリー・カスタンニード図書館の主要施設や資料の配置を十分に知ること
- (2)図書および定期刊行物の検索のためにペリー・カスタンニード図書館目録と逐次刊行物所在リストの利用によく慣れること
- (3)総合図書館の閲覧・貸出方針、28日間の貸出期間、教員を補助するポジションについている大学院生のための代理貸出委任カード、正式登録はしていないが修士または博士論文執筆のために研究活動をしている院生のための優待貸出カード、キャレル割当などなどの諸々の手続について熟知すること
- (4)貸出予約、図書館相互貸借、コンピュータによる情報検索サービス、利用者教育プログラム(オリエンテーションとビブリオグラフィック・インストラクション)、文献複写サービスなどなど大学院生に提供されている諸々のサービスについて知ること
- (5)大学院生のそれぞれの研究分野での図書館サービスを専門、あるいは担当するビブリオグラファー¹⁹⁾やライブラリアンが存在しており、彼らから必要な援助が得られることを知ること
- (6)学内の他の図書館の配置や資料の特色を知り、特に自分たちの研究分野に関連の深いコレクションを熟知すること

(7)学内の図書館の他に、その補助的な情報源となる諸々の機関が学外に存在することを知り、それらを活用する方法を知ること

<ペリー・カスタンニード図書館、分館図書館および特殊文庫の図書館と関連するプログラムの要点>

オリエンテーションを大学院生の必修科目とするよう学部や研究科に働きかける。オリエンテーションのプログラムは、図書館セミナーやワークショップの他に、教科目関連図書館利用者教育に組み入れられる。これらについては、Ⅲ. ビブリオグラフィック・インストラクションの項に記述する。

d. 諸々の特殊な学生グループ

その他、特殊な学生グループに対しては、それぞれのグループの特性に応じ、適当なプログラムを開設する。

(1)新たに大学に入学した者

- (a)新学部1年生——1年生英語の図書館利用者教育プログラムでオリエンテーションを行う。
- (b)編入生——これらの学生はグループとして扱うのが困難なので別の適切なプログラムを用意する。
- (c)大学院生のうち、①新入の大学院生に対しては、指導教授を通じて総合図書館の利用案内ハンドブックを配布し、また②新規採用の教育補助員に対しては、教員補助員ハンドブックで図書館を詳細に説明する。

(2)留学生

- (a)テキサス大学正規留学生——①外国人留学生に対する必修英語教科の中で学部学生図書館ツアーを実施する、②他のコースの外国人留学生には、要請があればツアーや懇談会を行う、③登録時期に、国際交流部や外国人留学生諸団体や一般サービス部窓口で、④図書館用語の多国語用語集や⑤合衆国図書館の利用に慣れていない外国人留学生に対する、図書館利用の特別印刷物を配布する
- (b)国際交流部英語講座留学生——①新規採用の英語講座教員との間で図書館サービスについての協議、②英語講座カリキュラムの必修科目として、

19) 主題専門のライブラリアン、Subject bibliographer などとも呼ばれ、主として、特定主題分野の資料収集、蔵書構築、レファレンス・サービスを担当している。

大学図書館利用者教育研究序説

講座の教員による図書館見学ツアーを実施する。

その他必要に応じ国際交流部と学部学生図書館が
必要なプログラムを協議する。

- (3)少数民族学生、経済的に困難な学生、身体障害学生、
中高年齢学生など特殊条件の学生

これらの学生に対しては、必要に応じ、また要
請があれば、図書館利用についての話し合い、館
内見学ツアー、印刷物の配布などを行う。

- (4)学会、研究会、ワークショップなどへの参加者

これらの人々については、図書館連絡事務局²⁰⁾
がこれらの人々に関して図書館資料の借用申請が
出されたときに必要なオリエンテーションを行う

- (5)特待生

特待生に対しては、以上のプログラムとは別
の、適当なプログラムが準備される。

e. 教員および専門職職員

<プログラムの目標> 教員と専門職職員の図
書館利用目的達成を援助するために次のようなプ
ログラムが準備される。

- (1)教員と専門職職員がその身分や職種に応じて規定
された閲覧・貸出方針や手続に慣れること

- (2)彼らの研究活動や教育活動、とくに学生に課題す
るアサイメントなどに関連して、図書館蔵書の整
備状況を十分に理解し、また、自分自身の研究分
野における資料収集についてビブリオグラファー
や他のライブラリアンと協議する必要があること
を認識すること

- (3)図書館相互貸借サービス、リザーブ・ブック制
度、書誌作成、セミナー・ルームなど施設利用、
各種教育・研究メディアの利用、コンピュータに
よる情報検索サービスなど、図書館が提供するあ
らゆるサービスが教員の教育・研究諸活動を支援
し、補助するものであることを認識すること

- (4)学生に対するオリエンテーションやビブリオグラ
フィック・インストラクション・プログラムを熟
知し、それらが学生の図書館利用能力を向上させ

ることに実際のな期待を寄せること

- (5)教員の、いろいろな活動に関して図書館を利用す
る場合に、公式的にも非公式的にも教員を個別的
に援助するリエゾン・ライブラリアン²¹⁾と知り合
いになること

<プログラムの内容>

- (1)新規採用の教員および専門職職員

- (a)新規採用の教員に対しては、彼らに直接サービ
スする適当なビブリオグラファーやリエゾン・
ライブラリアンを指名した文書を送付し、同時
に、教員・大学院生対象の図書館利用ハンドブ
ック、資料収集マニュアル²²⁾、リザーブ・ブック・
メモランダム、ライブラリー・ディレクター、
ブックマークなど適当な印刷物を同封する。

- (b)新規採用の教員に対して配布する図書館利用ハ
ンドブックによって図書館の詳細な案内をする。

- (c)図書館管理者、ビブリオグラファー、リエゾン
・ライブラリアンが協同で新規採用の教員のオリ
エンテーションのための懇談を実施する。

- (d)新規採用の専門職職員に対しては、彼らが参加
する OPSER オリエンテーション・プログラム²³⁾
において図書館案内を行う。

- (e)新規採用のライブラリアンについては、彼らの
直属上司や図書館管理者の責任においてオリエン
テーションを行い、特別のプログラムは設けな
い。

- (2)一般教員および一般専門職職員

- (a)新規に開始されるサービスや現行サービスの手
続変更については印刷物によって通知する。

- (b)リエゾン・ライブラリアンによる個人的接触。

- (c)図書館管理者、リエゾン・ライブラリアンなど
教員の間で、学部、学科のスタッフミーティング
などを利用して懇談をする。

f. 一般職員

<プログラムの目標> 大学の事務を中心とする
一般職員の次のような図書館利用目標を達成でき

20) 21) のテキサス大学図書館の連絡調整を担当する部局。

21) リエゾン・ライブラリアンは特定の職位や職務ではなく、教育・研究に対し図書館サービスをより一層密接させ
るため、個々の教員からの特殊な、個別的な要求を受ける図書館側の窓口となり、必要であれば、個人的にそれ
を処理する非公式的職能を持ったライブラリアン。

22) The University of Texas at Austin, the General Libraries. *Library acquisitions manual for faculty*,
1977. 21 p. 図書館収集方針、収集計画、収集手続などを説明しているマニュアル。

23) 大学が行う人事関係のサービス・プログラム

るようにプログラムを設計し、実施する。

(1)一般職員がその職務を効果的に履行するために活用できる図書館サービスの内容を知り、必要なときに連絡する担当者を知ること

(2)図書館資料の発注・受入、教員が申請するリザーブ・ブックの設置、館外貸出手続などを含め、彼らの職務に関係のある図書館利用諸手続に熟知すること

<プログラムの内容>

(1)新規採用職員に対しては、OPSER オリエンテーション・プログラムを通じて、図書館利用案内を実施する。

(2)新職員に図書館案内シートや図書館の詳しい案内を掲載した *OPSER Staff Handbook*²⁴⁾ を配布する。

(3)また、*Personnel-O-Gram* でも、図書館の方針やサービスの内容や利用手続を通知する。

(4)秘書やそれと同種の職員に対しては、*Personnel-O-Gram* を通じてマルチ・メディア・プレゼンテーションによって定期的なオリエンテーションを行う

g. 学外利用者

学外利用者に対するオリエンテーションは、随時適切な方法で行う。たとえば、優待貸出カードが申請されたときには、その時点でそれに関する説明を行い、個別的な援助を求められたときには、その時点で適切な方法を取り、また、要請があれば、図書館見学ツアーもアレンジする。

III. ビブリオグラフィック・インストラクション

テキサス大学図書館利用者教育計画の、第3段階の目的は、利用者がそれぞれの情報要求についてサービス、資料、施設、ライブラリアンを活用し、それらのものから最大限に有効な情報を得ることができるよう、次の目標をもつ。a. 蔵書、サービス、ライブラリアンの活用に関する図書館利用技術を、個々に改善することができること、b. それらの資源を活用し、利用者の自主的勉学の能力を増進させることができること。

<この計画書で使われている用語の定義>

教科目関連図書館利用者教育 (Course-related library instruction) —— 教育の重点は特定コース

の、特定のアサイメントの解決に役立つ数々の参考資料の解説やそれらを含め学生個々のレベルでの文献検索利用技術の開発に置かれる。

ライブラリアンは、そのアサイメントに必要な文献や情報の探索法を助言すべく準備する。この場合の利用者教育は、コースの中で図書館利用に関連して実施されるアサイメントを学生が首尾よく処理することが狙いとなる。

教科目統合図書館利用者教育 (Course-integrated library instruction) —— 図書館利用者教育自体が一つのコースとなっている。したがって、このコースは図書館利用に関する事項と専門分野の主題に関する事項の両面での教育が重視されるが、一つの目的は、学生の図書館利用能力の向上という点にあることは明らかである。

<コース・ランク> (訳出省略)

<ビブリオグラフィック・インストラクションの担当分担について> (付表参照)

1. 図書館が独自に開発した学生の自発的図書館利用者教育プログラム

以下のプログラムは、特定の利用者グループのために設計され、そのグループへのビブリオグラフィック・インストラクション・プログラムの一つとして活用されている。それらには、たとえば、低学年学部生向けに作られた *Reader's Guide* の<利用の要点>カセット・テープであるとか、大学院生向けに作られた *Dissertation abstracts* のコンピュータ・アシステッド・インストラクションのプログラムなどが含まれている。しかしながら、それらのプログラムは、本来、どの利用者にも活用されるべきものであるので、以下には、幾つかの特定利用者グループ向けのプログラムとともに挙げられている。

a. 印刷物

(1)*Selected Reference Sources* —— このシリーズは、たとえば、文化人類学、ラテンアメリカ研究、合衆国政治研究など、比較的広範な主題分野における基本的な文献解題のリストを作成するよう計画されている。

(2)*Pathfinder* —— これは市販されている出版物であるが、広範な主題分野の特定の観点についての情報を提供すべく作成されており、個々の文献の書

24) 大学が全教職員に配布する大学のハンドブック

<付表>

U. T. School or College	Library Responsible for Bibliographic Instruction		
	Lower-Division	Upper-Division	Graduate
General and Comparative Studies			
Asian Studies	Asian	Asian	Asian
Ethnic Studies (Mexican American)	LAC	LAC	LAC
Latin American Studies	LAC	LAC	LAC
Middle Eastern Studies	MEC	MEC	MEC
Other	UGL	PCL	PCL
Humanities	UGL	PCL	PCL
Law	N/A	N/A	Law
Graduate School of Library Science	N/A	LIBSCH	LIBSCH
Natural Science			
Astronomy	PMA	PMA	PMA
Biological Sciences	BIOL	BIOL	BIOL
Chemistry	CHEM	CHEM	CHEM
Computer Sciences	PCL	PCL	PCL
Geological Sciences	GEOL	GEOL	GEOL
Home Economics	UGL	PCL	PCL
Nutrition	CHEM	CHEM	CHEM
Mathematics	PMA	PMA	PMA
physics	PMA	PMA	PMA
Nursing	PCL	PCL	PCL
Pharmacy	CHEM	CHEM	CHEM
LBJ School of Public Affairs	N/A	N/A	PUBAFF
Social & Behavioral Sciences	UGL	PCL	PCL
Graduate School of Social Work	N/A	PCL	PCL

名だけでなく、その主題についての情報探索法についても解説が加えられている。学部学生図書館には、この種の出版物がすべて揃っており、他の図書館でも選別された上で所蔵されている。

(3) *Study Guides*—このシリーズは、たとえば、単行本、雑誌論文などの特定のタイプの資料についての基本的入手法を解説している。

b. <利用の要点>のための教材

<利用の要点>教材は、実際に利用する必要が生じた時に、その場で利用者が使用できるよう提供されるものである。上記のような文献案内の印刷物、カセット・テープ、ビデオ・テープ、スライドとテープの組合せ教材、録音付きフィルムストリップなど各種のメディアと機械類が活用される。<利用の要点>教材は、ビブオリグラフィック

・インストラクションの基本として繰り返し使用されるものである。総合図書館に備え付けられるが、時により、特定利用者に対するグループ指導にも使用される。

c. コンピュータによる教育 (CAI)

これは、利用の難しい複雑な構成の書誌・索引類の利用を教えるときに非常に有効な方法である。<利用の要点>教育が、基本的には、資料の一般的解説を主眼としているのに対し、コンピュータを利用すれば、いろいろな問題に対する解決法を演習したり、利用者の理解度を試したりすることもでき、さらに、彼らの解答が正しいかどうかフィードバックさせ、学習をさらに進めることなどができる。この方法をとるものには、総合図書館の閲覧目録、ヒューマン・リレーションズ・

エリア・ファイルなどがある。

2. 各種の利用者グループに対して独自に開発された自発的図書館利用教育プログラム

a. 低学年学部学生

〈プログラムの要点〉 プログラムの内容は、低学年学部学生が以下のような図書館利用目標を達成できるよう計画される。

- (1)低学年学部学生が、百科事典や専門事典の使い方に慣れたり、百科事典の索引から求める情報や資料を検索したり、件名目録を使ってあまり名の知られていない百科事典を探し出すことができるようになること
 - (2)カード目録(“著者”“書名”または“件名”)によって求める文献を検索できたり、目録記述の各要素の意味が説明できるようになったり、さらに、件名目録(米議会図書館件名標目、相互参照、トレーシングなどの構成)にあらわれている件名用語と学生自身の頭の中に思い付いた語句とを合致させることができるようになること
 - (3)ごく一般的な雑誌記事・論文索引の使い方に慣れ、その他にも数々の特殊な索引類が存在していることを知り、自分の情報要求に最も適した索引を使用することができるようになること、および索引に記述されているデータの意味を十分に理解すること
 - (4)資料の配置・配架図を見て、議会図書館分類法やデューイ十進分類法によって配架されている資料を自分で入手することができるようになること
 - (5)統計、新聞記事、書評、政府出版物、人名や地名についての情報などを知るための特別の参考書の存在を確認すること
 - (6)上記のような諸々のタイプの参考図書や道具類、すなわち、百科事典、カード目録、雑誌記事・論文索引、その他必要な参考資料を活用して、最も効果的な調査・研究法を自分で工夫できるようになること
- 〈プログラムの内容〉
- (1)学部学生図書館におけるプログラム

(a)1年生英語に統合された利用教育、①図書館利用能力を向上するための諸目標を1年生英語コー

スのシラバスに含める。②教育の方法は、基本的には、印刷された教材を主体とする。すなわち、図書館で作成したスタディ・ガイドやワークシートを使い、学生はそれに従って必要な情報や文献を集め、論文を書く。③スタディ・ガイドを補促したり、その使用を一層効果的にするために、ビデオ・テープ、スライド=テープ、録音テープ、あるいは、補助的な印刷物を使用する。④資料の提供や学生の図書館利用技術の評価のために、ライブラリアンは英語教員を援助する、またシラバスの作成、オリエンテーション打合せ、E 398 T²⁵⁾などにおいても、ライブラリアンと教員が協同して行う。

(b)低学年学部学生の他のコースにおける教科目統合図書館利用者教育は、1年生英語で行った基本的な利用技術を強化するために実施する。これは、低学年学部学生のビブリオグラフィック・インストラクションに責任をもつ学部学生図書館が行う。

(c)教科目関連図書館利用者教育は; 教員からの要請に応じて計画されるが、印刷物を教材として提供するか、あるいはライブラリアンがクラスで講義することによって行う。

(2)分館図書館や特殊文庫のライブラリアンが関与するプログラム

低学年学部学生の利用教育で学部学生図書館以外の図書館のサービスが関連するものについては必要に応じて開発される。

b. 高学年学部学生

〈プログラムの要点〉 低学年で修得した技術に加え、高学年学部学生が以下の目標を達成できるようプログラムを設計する。

- (1)ペリー・カスターニエード図書館閲覧目録を効果的に利用できるようになること
- (2)専攻する分野での情報がどんな構成をもっているかについて基本的概念を持ち、その分野の文献案内や基本的参考図書の使い方によく慣れること
- (3)専攻分野における基本的文献調査計画を自分で工夫し、実施できるようにすること、さらに、初歩的なレベルでの文献評価ができること

25) 1年生英語のコースナンバー

26) 論文作成の方法、手順、書き方、参考引用文献の記述法についての手引き書

(4)書誌記述の基本要素を熟知し、専攻分野のスタイル・マニュアル²⁶⁾を使うことができるようになること

<プログラムの内容>

(1)先に、テキサス大学の教員と学生を対象にして実施した調査²⁷⁾で明らかにされたことを基礎にして、教科目統合図書館利用者教育に関心を示している教員や、それが最も適していると考えられる特定のコース、たとえば、各学部 of 優等生コースやそのプログラムなどをまず識別する。その上で、各学部に接触し、学生の図書館利用能力を卒業の前提条件とするよう働きかける。その一方で、特定の教科目統合図書館利用教育プログラムを教員と協同で開発する。そこでの教育は、書誌、主題別文献案内、あるいは、その特定のコースやクラスのために作られた各種教材を含め、印刷物を主体とした形とライブラリアンによる講義で行う。

(2)教科目関連図書館利用者教育は、教員の要請によって開発され、印刷物を教材として使用するライブラリアンによる講義をもって行う。

(3)総合図書館は以上のものとは別に次のコースを開発する。

(a)高学年学部学生を対象に書誌と図書館利用技術を中心に解説する文献検索コース

(b)論文作成に必要な参考文献検索計画や引用文献の記述法、あるいは参考文献リストの作成法を中心としたターム・ペーパー・クリニックなど、高学年学生の特別の必要に応じたワークショップ

c. 大学院生

<プログラムの要点> 大学院生には次の図書館利用目標を達成するためのプログラムを計画する。

(1)大学院生は、大学院レベルでの研究・調査に必要な基本的情報源である *National Union Catalog*、その他諸外国の全国書誌、*Union List of Serials*、*New serial Titles*、*Dissertation Abstracts International* などを熟知すること

(2)専攻分野の特殊な研究資料を完全に使いこなすことができるようになること

(3)専攻分野の高度の研究・調査に不可欠な緻密な文献検索に慣れること

(4)専攻分野の最新情報を常に入手できる方法を身につけること

(5)研究・調査計画の実施に際して学内所蔵資料の特質や限界などを十分に理解すること。

<プログラムの内容>

(1)先に行われた図書館利用教育に関する調査で得られた結果をもとに、さらに各大学院研究科に接触して教科目統合図書館利用者教育に特に関心を持つ教員を探し出すと同時に、それが最も効果的であるコースを識別する。

(2)教科目関連図書館利用者教育は、教員の要請があれば開発するが、教育法は、印刷物の教材を使用した講義によって行われる。

(3)正規のカリキュラムに設定された以上のコースの他に、大学院生を対象とする次のようなビブリオグラフィック・インストラクション・プログラムを実施する。

(a)個別指導——修士・博士論文やそれ以外の研究のための文献検索計画設計について、ライブラリアンは個別的にスケジュールを立てて大学院生を指導し、必要な助言をする。

(b)学術論文作成などにおいて必要となる場合、専攻分野の基本文献や関連主題分野の特殊な資料の解説、学術情報組織法や文献検索法などについての非公式セミナーやワークショップを実施する。

d. 教員と専門職員

<プログラムの要点> 教員や専門職職員の次のような図書館利用目標を援助するようにプログラムを計画する。

(1)教員および専門職職員の研究・調査を援助するための図書館のはたらきや最新の発展に熟知すること。

(2)最新の書誌類についてよく知り、使いかたに慣れること。

<プログラムの内容>

非公式図書館セミナー——教員に対して実施する調査によって関心の高いトピックについて計画す

27) テキサス大学が、この図書館利用計画に先だてて行った利用教育に関する意識と態度調査——A comprehensive program of user education for the General Libraries, the University of Texas at Austin, 1977, p. 3-24.

る。その中には、たとえば、コンピュータによる情報検索サービス、人類学専門以外の研究者に対する HRAF の利用、最新刊の重要参考図書、OCLC²⁸⁾の一般サービス用端末機の利用、閲覧目録の特性と限界などのテーマが含まれる。

e. 一般職員および学外利用者

これらの利用者に対してのビブリオグラフィック・インストラクションは、今のところ準備されていない。

28) Ohio College Library Center の略。通常次のことを意味する。非常に多くの文献情報のデータベースで、同センターを中心としたオンライン・ネットワークは、現在米国における文献情報、目録情報、相互貸借などのために活発に利用されており、ネットワークに参加している図書館は端末機によって、即座にアクセスすることが可能となっている。